

◎基礎学力の定着と思考・判断・表現力の育成を目指します

○「わかる授業」と言語活動の充実

1. 授業時間数を確保し、ゆとりを持った丁寧な授業を実践します。

教職員	
A	授業実施率の確保も大切だが、実施率にこだわらず、生徒の理解度、到達度を高めることを第一としてゆとりのある授業時数の確保を心がけている
B	90～100%の授業実施率の確保と、生徒の理解度、到達度との兼ね合いを意識して授業時数と授業の進め方について常に意識し計画的に授業実践している
C	授業実施率をある程度気にかけているが、学習内容と時数、生徒の実態との兼ね合いについてももう少し意識しなければならないと感じる
D	生徒の理解度、到達度を高めるための工夫と授業時数確保について、普段意識できていない
生徒	
A	全体的に授業の進み方にはゆとりがあり、丁寧な授業がほとんどで、授業時数も十分だと思う
B	進み方にはゆとりのある授業が多く、丁寧な授業もあり、授業時数もちょうどよいと思う
C	進み方にゆとりがなく、わかりにくい授業もある。授業時数がもう少し多いといいと思う
D	進み方にゆとりがなく、わかりにくい授業が多い。全体的に授業時数がもっと必要だと思う

1	計				教員		集計				
	A	B	C	D	A+B	%					
千葉	A	5			A+B	12					
	B	7			%	80					
滝本	C	3	合計	15	C+D	3					
	D	0			%	20					
		1年	2年	3年	計	生徒					
A	12	8	10	30	A+B	45	50	39	134		
B	33	42	29	104	%	75	70	75	73		
C	15	17	12	44	合計						
D	0	4	1	5	183						

2. 教師の授業力を高め、「学ぶ楽しさ」「学び合い」の充実を目指します。

教職員	
A	「学ぶ楽しさ」「学び合う活動」を授業に取り入れるよう、積極的に授業研究をし、多くの授業で実践できた。
B	「学ぶ楽しさ」「学び合う活動」を授業に取り入れるよう、積極的に授業研究をし、いくつかの授業で実践できた。
C	「学ぶ楽しさ」「学び合う活動」を授業に取り入れるよう授業研究をしたが、授業では実践できなかった。
D	「学ぶ楽しさ」「学び合う活動」を授業に積極的に取り入れる授業研究をしなかった。
生徒	
A	グループで話し合ったり、教え合う活動が授業では多く取り入れられていた。
B	グループで話し合ったり、教え合う活動が授業では時々取り入れられていた。
C	グループで話し合ったり、教え合う活動が授業ではあまり取り入れられていなかった。
D	グループで話し合ったり、教え合う活動が授業ではほとんどなかった。

2	計				教員		集計				
	A	B	C	D	A+B	%					
滝本	A	4			A+B	14					
	B	10			%	100					
千葉	C	0	合計	14	C+D	0					
	D	0			%	0					
		1年	2年	3年	計	生徒					
A	13	10	10	33	A+B	53	56	44	153		
B	40	46	34	120	%	88	79	85	84		
C	7	12	7	26	合計						
D	0	3	1	4	183						

### 3. 各教科で「話す、聞く、書く」力をつける取り組みを強化し、言語活動の充実を図ります。

教職員	
A	担当する教科において言語活動の充実を意識した実践が十分にでき、生徒に変容が見られた。
B	担当する教科において言語活動の充実を意識した実践ができたが、生徒の変容は感じられない。
C	担当する教科において言語活動の充実を意識した実践があまりできなかった。
D	担当する教科における言語活動について、何をすればいいのかわからない。
生徒	
A	発表する、人の意見を聴く、自分の意見や考えを書くなどの活動がほとんどの授業で取り入れられ、「話す・聞く・書く」力が身についてきたと感じる。
B	発表する、人の意見を聴く、自分の意見や考えを書くなどの活動がほとんどの授業で取り入れられたが、「話す・聞く・書く」力が身についてきたかどうかはわからない。
C	発表する、人の意見を聴く、自分の意見や考えを書くなどの活動が授業であまり取り入れられていないので、「話す・聞く・書く」力が身についてきたかどうかはわからない。
D	発表する、人の意見を聴く、自分の意見や考えを書くなどの活動が授業でほとんど取り入れられていないので、「話す・聞く・書く」力が身についてきたかどうかはわからない。

3	計				教員		集計			
	A	5				A+B	13			
滝本	B	8				%	93			
千葉	C	1	合計		C+D	1				
	D	0	14		%	7				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計	
A	19	17	15	51	A+B	58	63	47	168	
B	39	46	32	117	%	97	89	90	92	
C	2	5	5	12	合計					
D	0	3	0	3	183					

### 4. 日常生活の各場面や郷土の歴史文化、先人を教材に取り入れ、生活に根ざした学びの場を作ります。

教職員	
A	教科の特性に応じて ①日常生活の教材化 ②郷土の歴史文化の教材化 ③郷土の先人、偉人の教材化 ④その他実生活の各場面を学習に取り入れる のうちどれかに計画的に取り組んでいる
B	上記の学習活動のうちどれかについて、今年度内に取り組む計画がある。
C	上記の学習活動のうちどれかについて今後検討し取り組んでいく
D	上記の学習活動について取り組む予定がない
生徒	
A	毎日の学習活動(授業)の中で、次のどれかについて学習する教科が3つ以上ある ①毎日の生活に関係する学習 ②郷土の歴史や文化に関する学習 ③郷土の先人、偉人に関する学習
B	上記①～③に関する学習を行う教科が2つ以上ある
C	上記①～③に関する学習を行う教科が1つ以上ある
D	上記①から③に関する学習を行う教科は一つもない

4	計				教員		集計			
	A	8				A+B	12			
千葉	B	4				%	86			
	C	2	合計		C+D	2				
	D	0	14		%	14				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計	
A	9	13	13	35	A+B	40	47	33	120	
B	31	34	20	85	%	67	66	63	66	
C	17	21	16	54	合計					
D	3	3	3	9	183					

## 5. 読書習慣を身につけ、国語の基礎力充実に努めます。

教職員	
A	朝の読書時間は一緒に読書するなど自ら範を示し、自分の授業で読書指導や学校図書館の活用を指導または実践し、学活などで読書指導を意図的、計画的に実施している
B	朝の読書時間は生徒と共に読書し自ら範を示し、学活などで読書指導を意図的、計画的に実施している
C	朝の読書時間は生徒と共に読書しているが、他の時間での読書指導は十分とは言えない
D	読書指導について十分な指導ができていない
生徒	
A	読書は好きで、1ヶ月に一冊以上本を読む
B	読書は好きなほうで、2ヶ月に一冊くらい本を読む
C	読書はあまり好きではないが、なるべく本を読もうとはしている
D	読書は好きではなく、本も学校以外ではほとんど読まない
保護者	
A	子どもは本が好きで、よく本を読んでいるし、家族でも読書に関する話題を出したりして読書をすすめている
B	子どもは本に興味を持っており、家庭でも時々読書している
C	子どもは本にあまり興味関心がなく、読書する姿はあまり見られない
D	子どもは本に全く興味がなく、家では全く読書していない

5	計			
	A	2		
黒川	B	4		
中野	C	6	合計	
	D	0		12
	1年	2年	3年	計
A	16	29	8	53
B	20	25	12	57
C	11	9	18	38
D	13	8	14	35
				合計
				183
	1年	2年	3年	計
A	8	11	4	23
B	26	33	22	81
C	16	17	18	51
D	6	7	5	18
				合計
				173

教員	集計			
A+B	6			
%	50			
C+D	6			
%	50			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	36	54	20	110
%	60	76	38	60
C+D				
%				
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	34	44	26	104
%	61	65	53	60
C+D				
%				

## ○家庭学習の充実

## 6. 「宿題＋自主学習の習慣化」で家庭学習時間の確保を支援します。

教職員	
A	家庭学習の習慣化に向けて具体的な取り組みをすることができ、多くの生徒に望ましい変容が見られた。
B	家庭学習の習慣化に向けて具体的な取り組みをすることができ、一部の生徒に望ましい変容が見られた。
C	家庭学習の習慣化に向けて具体的な取り組みをしたが、多くの生徒に望ましい変容が見られなかった。
D	家庭学習の習慣化に向けての具体的な取り組みができなかった。
生徒	
A	毎日、宿題がなくても家庭学習に取り組み、宿題や自主学習を期限までに必ず提出できている。
B	宿題があるときは、家庭学習に取り組み、宿題や自主学習を期限までに必ず提出できている。
C	宿題があっても家庭学習をしない日もあり、宿題や自主学習も期限までに提出できない時もある。
D	家庭ではほとんど学習することがなく、宿題や自主学習をやらないことが多い
保護者	
A	子どもはほぼ毎日、一定の学習時間を確保し、精一杯学習に取り組んでいるようだ
B	子どもはほぼ毎日、一定の学習時間を確保し、自分なりに頑張っていると思う
C	子どもは家庭学習をする日としない日があり、家庭学習が習慣化していないようだ。
D	子どもは家ではほとんど学習をしていないように見える。

6	計			
	A	6		
滝本	B	8		
佐竹	C	0	合計	
伊東	D	0		14
	1年	2年	3年	計
A	15	18	24	57
B	33	34	20	87
C	9	15	7	31
D	4	4	1	9
				合計
				184
	1年	2年	3年	計
A	9	8	4	21
B	33	42	35	110
C	12	16	10	38
D	2	2	0	4
				合計
				173

教員	集計			
A+B	14			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	48	52	44	144
%	79	73	85	78
C+D				
%				
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	42	50	39	131
%	75	74	80	76
C+D				
%				

**7. 生徒との学習相談、保護者との三者懇談を定期開催し、家庭学習の方法やめあてを話し合い、支援します。**

教職員	
A	生徒との懇談、保護者との懇談ともに時間、内容とも適切かつ十分な懇談とすることができた
B	生徒との懇談、保護者との懇談ともに、時間、内容ともある程度充実した懇談が行えた。改善すべき点もあるが、次回は修正できる
C	時間または内容的に更に充実させるために、改善が必要な点がある →( )
D	時間または内容的に改善すべき点が目立ち、抜本的な改革が必要である。
生徒	
A	担任の先生との個人懇談では、学習方法や目標について良いアドバイスをもらい、改善につなげることができた
B	担任の先生との個人懇談では、学習方法や目標についてよく話し合い、頑張って学習しようという気持ちを持てた
C	担任の先生との個人懇談で学習方法や目標について話し合ったが、学習方法や目標の持ち方などについてもっと時間をとって詳しく知りたいと思った。
D	担任の先生との懇談では学習方法や目標の持ち方などがよくわからず、やる気も持てなかった
保護者	
A	三者懇談は時間的にも内容的にも充実し、子どもの学習状況などについてよくわかった。
B	三者懇談は子どもの学習の様子や今後のめあてなどについて話し合い、だいたいの様子を知ることができた
C	子どもの学習の様子や今後のめあてなどについて話し合ったが、今ひとつよくわからなかったので、もっと時間をとって詳しくしてほしい
D	子どもの学習の様子や今後のめあてなどについての話し合いとしては時間が不足し、説明もわかりにくく不満が残ったので改善してほしい

7	計				
	A	5			
千葉	B	8			
	C	0	合計		
	D	1	14		
	1年	2年	3年	計	
A	20	18	28	66	
B	32	40	23	95	
C	3	12	0	15	合計
D	5	2	1	8	184
	1年	2年	3年	計	
A	14	15	14	43	
B	39	47	31	117	
C	3	4	2	9	合計
D	0	1	1	2	171

教員	集計			
A+B	13			
%	93			
C+D	1			
%	7			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	52	58	51	161
%	87	81	98	88
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	53	62	45	160
%	95	93	94	94

○学習支援体制の充実

**8. 長期休業を利用した補充学習を計画的に実施します。**

教職員	
A	休業中の補充学習は計画的に十分な時間と内容をもって実施され、自分としても成果もあげることができたと感じる
B	休業中の補充学習は計画的に時間と内容を設定し、一定の成果を収めることができたと感じる
C	休業中の補充学習は、時間設定、内容設定などに改善するとよい部分があった
D	休業中の補充学習は、その在り方をもう一度根本的に検討する必要がある
生徒	
A	夏休みの補充学習には可能な限り積極的に参加し、ためになることがあった
B	夏休みの補充学習はできるだけ参加し、ある程度ためになった
C	夏休みの補充学習は、できるだけ参加したが、あまりためになることがなかった
D	夏休み中の補充学習は休みがちで、意欲を持って取り組むことができなかった
保護者	
A	子どもは夏休み中の補充学習に参加し(3年全員 1, 2年は主に指名した生徒)、積極的に取り組み成果があったようだ
B	子どもは夏休み中の補充学習に参加し(3年全員, 1, 2年は主に指名した生徒)、まじめにとりくんでいたようだ
C	子どもは夏休み中の補充に参加したが(3年全員, 1, 2年は主に指名した生徒)あまり積極的には取り組めなかったようだ
D	子どもは夏休み中の補充学習に参加したが(3年全員, 1, 2年は主に指名した生徒)意欲が持てず休むこともあったようだ

8	計				
	A	3			
千葉	B	9			
	C	1	合計		
	D	1	14		
	1年	2年	3年	計	
A	9	13	23	45	
B	12	11	15	38	
C	3	3	1	7	合計
D	2	2	3	7	97
	1年	2年	3年	計	
A	4	1	11	16	
B	20	27	36	83	
C	4	10	2	16	合計
D	0	0	0	0	115

教員	集計			
A+B	12			
%	86			
C+D	2			
%	14			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	21	24	38	83
%	81	83	90	86
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	24	28	47	99
%	86	74	96	86

### 9. 朝や放課後に基礎学力の向上のための時間を設定し設定します。

教職員	
A	朝の学習は計画的に取り組んでいるし、生徒の取り組み状況も前向きで、確実に学習効果があがった
B	朝の学習は計画的に取り組んでいるし、生徒の取り組み状況もまじめで、ある程度の学習効果が得られた
C	朝の学習は計画的に取り組んでいるし、生徒もそれなりに取り組んでいるが、学習効果は今一つ得られず、内容や方法に改善の余地がある
D	朝の学習については計画や生徒の意識、内容や方法に改善の余地が多い
生徒	
A	朝の学習時間(読書の時間以外)は自分の基礎学力の向上にとっても役に立っていると思う
B	朝の学習時間(読書の時間以外)は自分の基礎学力の向上にある程度役に立っていると思う
C	朝の学習時間(読書の時間以外)の学習は、自分の基礎学力の向上にあまり役に立っていないと思う
D	朝の学習時間(読書の時間以外)の学習は、自分の基礎学力の向上にまったく役に立っていないと思う

9	計				教員		集計			
	千葉	A	6			A+B	13			
滝本	B	7			%	87				
	C	0	合計		C+D	2				
	D	2	15		%	13				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計	
A	19	24	23	66	A+B	55	58	47	160	
B	36	34	24	94	%	92	83	90	88	
C	5	9	3	17	合計					
D	0	3	2	5	182					

### 10. 各教科のコンテストなどを実施し、めあてを持った学習とやり遂げる喜びを味わう機会を作ります。

教職員	
A	教科や学年でコンテストを実施し、多くの生徒が自分なりの目標に向けて意欲的に努力し、目標を達成する喜びを味わうことができた。
B	教科や学年でコンテストを実施し、多くの生徒が自分なりの目標に向けて努力したが、意欲的に取り組めない生徒もいた。
C	教科や学年でコンテストを実施したが、意欲的に取り組めない生徒が多かった。
D	教科や学年でコンテストを実施しなかった。
生徒	
A	教科や学年で実施したコンテストでは、自分なりに目標を持ち、努力し、目標を達成することができた。
B	教科や学年で実施したコンテストでは、自分なりに目標を持ち、努力したが、目標を達成することはできなかった。
C	教科や学年で実施したコンテストでは、意欲的に取り組むことができず、目標を達成することはできなかった。
D	教科や学年でコンテストに取り組まなかった。

10	計				教員		集計			
	滝本	A	6			A+B	12			
佐竹	B	6			%	92				
	C	0	合計			1				
伊東	D	1	13			8				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計	
A	17	38	29	84	A+B	49	62	48	159	
B	32	24	19	75	%	82	89	92	87	
C	11	7	4	22	合計					
D	0	1	0	1	182					

◎自主・自立の精神と未来を切り拓くたきましさを育て

○生徒会活動の充実

**11. 伝統ある生徒会活動を一層充実させ、望ましい自治意識、自主性、創造性を高めます**

教職員	
A	子どもの自治意識、自主性、創造性を高めることを意識して生徒会活動に関わり、積極的に活動を指導支援してきた
B	子どもの自治意識、自主性、創造性を高めるための生徒会活動に対して、必要と思われる指導支援を行ってきた
C	子どもの自治意識、自主性、創造性を高めるための生徒会活動に対して、最低限の指導支援はできた
D	子どもの自治意識、自主性、創造性を高めるための生徒会活動に対して指導支援することが殆どできなかった
生徒	
A	生徒会活動に目的意識を持って自主的、積極的に取り組めた
B	生徒会活動に目的意識を持ってまじめにしっかり取り組めた
C	生徒会活動に対し与えられた責任だけはしっかり果たした
D	生徒会活動に対し消極的な活動しかできなかった

11	計		教員		集計				
	A	9		A+B	14				
黒川	B	5	%	93					
中野	C	1	合計	C+D	1				
	D	0	15	%	7				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計
A	14	18	17	49	A+B	42	55	39	136
B	28	37	22	87	%	70	79	75	75
C	18	10	11	39	合計				
D	0	5	2	7	182				

○キャリア教育の推進

**12. 各学年の発達段階に合わせたキャリア教育の視点を様々な活動に設定し、主体的に自分の進路を選ぶ力**

教職員	
A	それぞれの学年の進路目標(左記)が十分に達成された
B	それぞれの学年の進路目標(左記)がおおむね達成された
C	それぞれの学年の進路目標(左記)があまり達成されなかった
D	それぞれの学年の進路目標(左記)が全く達成されなかった
生徒	
A	自分の進路についてまじめに考え、具体的な目標を持つことができた。
B	自分の進路について具体的な目標を持つことはできなかったが、まじめに考えようとした。
C	自分の進路についてまじめに考えようとしなかった。
D	自分の進路についてまじめに考える必要ないと思っている。
保護者	
A	子供の態度は、進路についてまじめに考え、自分なりに努力しようとしているように見える。
B	子供の態度は、自分の進路についてまじめに考えようとしているのだが、行動には表れていないように見える。
C	子供の態度は、自分の進路についてまじめに考えようとしていないように見える。
D	子供の態度は、自分の進路について無関心であるように見える。

12	計		教員		集計				
	A	1		A+B	13				
平井	B	12	%	100					
田結	C	0	合計	C+D	0				
笹山	D	0	13	%	0				
	1年	2年	3年	計	生徒	1年	2年	3年	合計
A	24	18	34	76	A+B	54	65	50	169
B	30	47	16	93	%	90	93	94	92
C	6	5	2	13	合計				
D	0	0	1	1	183				
	1年	2年	3年	計	保護者	1年	2年	3年	合計
A	15	18	30	63	A+B	46	57	47	150
B	31	39	17	87	%	82	85	96	87
C	5	7	2	14	合計				
D	5	3	0	8	172				

○ふるさと意識の高揚と地域に貢献する力の育成

13. 社会体験学習やふるさと学習、自然体験などを通して、地域社会の一員として郷土を愛し、未来に向けて

教職員	
A	ふるさと意識の高揚を目標とした活動は、量的にも質的にも十分実践し、目標を達成できた
B	ふるさと意識の高揚を目標とした活動は、量、質ともにある程度充実し目標をある程度達成できた
C	ふるさと意識の高揚を目標とした活動は実施したが、目標の達成は今ひとつ十分とは言えなかった
D	ふるさと意識の高揚を目標とした活動は量、質ともに不十分で目標の達成はできていない
生徒	
A	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などを通してふるさと敦賀のよさを感じ、郷土を大切にしようと強く思った
B	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などを通して、ふるさと敦賀を意識することができた
C	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などを行ったが、ふるさと敦賀を感じたり大切にしようと感じたりはできなかった
D	社会体験や野坂山登山、福祉活動、グリーン作戦などは何のために実施したのかわからない
保護者	
A	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などは子どもたちにふるさと敦賀を意識させる活動として適当だと思う
B	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などは、ふるさと敦賀を意識させる活動としてある程度有効だと思う
C	社会体験や野坂山登山、福祉活動、山車巡行、グリーン作戦などはふるさと敦賀を意識させる活動としてあまり効果的でないと思う。
D	社会体験や野坂山登山、福祉活動、グリーン作戦などはふるさと敦賀を意識させる活動としては意味がないと思う

13	計				
	A	5			
	B	8			
	C	2	合計		
千葉	D	0	15		
	1年	2年	3年	計	
	A	23	33	21	77
	B	31	28	27	86
C	5	6	3	14	合計
D	1	3	1	5	182
	1年	2年	3年	計	
A	27	39	31	97	
B	26	19	15	60	
C	2	0	4	6	合計
D	0	0	0	0	163

教員	集計			
A+B	13			
%	87			
C+D	2			
%	13			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	54	61	48	163
%	90	87	92	90
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	53	58	46	157
%	96	100	92	96

○支え合い高め合う学級づくり

14. 子どもたちが毎日、楽しく充実した学校生活を過ごせるよう、「通うのが楽しい学級作り」に努めます。

教職員	
A	学級(学年)経営案に基づいて学級(学年)経営を行い、「通うのが楽しい学級づくり」について大きな成果を得ることができた。
B	学級(学年)経営案に基づいて学級(学年)経営を行い、「通うのが楽しい学級づくり」について一定の成果を得ることができた。
C	学級(学年)経営案に基づいて学級(学年)経営を行ったが、「通うのが楽しい学級づくり」について成果が得られたかどうかはわからない。
D	「通うのが楽しい学級(学年)作り」に対して具体的な取り組みをしなかった。
生徒	
A	学校生活は楽しく、充実している。
B	学校生活において時々いやなこともあるが、だいたい楽しい。
C	学校生活はあまり楽しくない。
D	学校生活は楽しくない。
保護者	
A	子どもは、楽しく充実した学校生活を送っていると思う。
B	子どもは、おおむね楽しく学校生活を送っていると思う。
C	子どもは、あまり楽しい学校生活を送っていないと思う。
D	子どもは、楽しい学校生活を送っているとは思えない。

14	計				
	A	5			
	B	8			
	C	0	合計		
中野 滝本	D	0	13		
	1年	2年	3年	計	
	A	36	18	29	83
	B	22	40	18	80
C	2	7	3	12	合計
D	0	5	2	7	182
	1年	2年	3年	計	
A	31	19	26	76	
B	24	41	17	82	
C	0	5	7	12	合計
D	0	1	0	1	171

教員	集計			
A+B	13			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	58	58	47	163
%	97	83	90	90
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	55	60	43	158
%	100	91	86	92

◎豊かな心と健やかな身体の育成を目指します

○道徳教育の充実

**15. 道徳の授業時数を確保し、教材や指導法の研究を一層強化します。**

教職員	
A	道徳教育を充実させる第一歩として、道徳の授業時数を確実に確保できた。
B	道徳教育を充実させる第一歩として、道徳の授業時数はほぼ確保できた。
C	道徳の授業時数はあまり確保できなかった。
D	道徳の授業時数はほとんど確保できなかった。
生徒	
A	道徳の授業ではまじめに取り組み、先生の話や人の意見をしっかりと聞くことができた。
B	道徳の授業ではほぼまじめに取り組めた。
C	道徳の授業ではあまりまじめに取り組むことが出来なかった。
D	道徳の授業は必要だと思わない。

15	計	A	7		
	浜上	B	4		
	黒川	C	0	合計	
	滝本	D	0	11	
	1年	2年	3年	計	
A	17	14	28	59	
B	37	43	17	97	
C	5	10	4	19	合計
D	1	3	3	7	182

教員	集計			
A+B	11			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	54	57	45	156
%	90	81	87	86

**16. いじめや差別のない、楽しい学校づくりを生徒と共にめざします。**

教職員	
A	常に生徒の動向に注意して気になる生徒の様子を把握し、こちらから声をかけて問題の解決に当たったり、「いじめや差別のない集団づくり」について努力している。
B	気になる生徒の様子を把握し、問題の解決に当たったり、日頃から「いじめや差別のない集団」作りを意識している。
C	日頃から「いじめや差別」のない学校作りを目指してはいるが、成果が得られたかどうかはわからない。
D	「いじめや差別」のない学校作りを目指して指導してこなかった。
生徒	
A	いじめや差別的な発言をしないで、仲間の様子を気に配りながらのしく生活する事ができた。
B	クラスや部活の仲間の様子を気に配りながら、いじめや差別的な発言をしないよう気をつけた。
C	いじめや差別的な発言をしないよう気をつけていたが、守れないときがあった。
D	いじめや差別的な発言について、あまり気にしないで学校生活を送っていた。
保護者	
A	子どもは、いじめや差別的な発言のない集団で楽しく生活を送っていると思う。
B	子どもは、いじめや差別的な発言がほとんどない集団で生活を送っていると思う。
C	子どもから、いじめや差別的な発言が時々あると聞いている。
D	子どもから、いじめや差別的な発言が多いと聞いている。

16	計	A	12		
	笹山	B	3		
	浜上	C	0	合計	
		D	0	15	
	1年	2年	3年	計	
A	29	7	21	57	
B	22	37	22	81	
C	8	14	8	30	合計
D	1	2	1	4	172
	1年	2年	3年	計	
A	25	11	19	55	
B	20	29	20	69	
C	10	26	9	45	合計
D	0	0	2	2	171

教員	集計			
A+B	15			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	51	44	43	138
%	85	73	83	80
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	45	40	39	124
%	82	61	78	73

○相談活動の充実

17. 担任との面談や生活アンケートを定期的に行い、悩みや迷いを拾いあげ、解決への道筋を共に考えます。

教職員	
A	個人面談で生徒達と積極的に関わりを持ち、意思の疎通や信頼関係を築くことに成果を上げることができた。
B	個人面談で生徒達と積極的に関わりを持ち、意思の疎通や信頼関係を築くことにおおむね成果を上げることができた。
C	個人面談で生徒達と関わりを持ったが、意思の疎通や信頼関係を築くことにあまり成果を上げることができなかった。
D	個人面談で生徒達と十分な関わりを持つことができず、意思の疎通や信頼関係を築くこともほとんどできなかった。
生徒	
A	個人面談で先生と話し、自分の考えや思いをだいたい伝えることができた。
B	個人面談で先生と話し、自分の考えや思いを少し伝えることができた。
C	個人面談で先生と話し、自分の考えや思いをあまり伝えることができなかった。
D	個人面談で先生と話し、自分の考えや思いを全く伝えることができなかった。

17	計		教員		集計					
	A	4			A+B	14				
吉田	B	10			%	100				
	C	0	合計			C+D	0			
	D	0	14		%	0				
			1年	2年	3年	計				
A	26	24	24	74	A+B	50	56	45	151	
B	24	32	21	77	%	91	70	87	81	
C	5	11	4	20	合計					
D	0	13	3	16	187					

18. ストレスに対処する方法(ストレスマネジメント)や、円滑な人間関係の築き方(アサーション)を学び、将来にわたつ

教職員	
A	ストレスマネジメントの授業をしたことがあり、今後も機会があれば行っていきたい。
B	ストレスマネジメントの授業に興味があり、さらに詳しく知りたいと思っている。
C	ストレスマネジメントの授業は知っているが、あまり興味がない。
D	ストレスマネジメントを知らない。
生徒	
A	ストレスを感じたときには、学校で学んだ対処法(アサーション・リラククス法・呼吸法など)を活用し、役立っている。
B	ストレスを感じたときには、学校で学んだ対処法(アサーション・リラククス法・呼吸法など)を活用したことはないが、やってみたいと思う。
C	ストレスを感じたときには、学校で学んだ対処法(アサーション・リラククス法・呼吸法など)を活用したいとは、あまり思わない。
D	ストレスの対処法(アサーション・リラククス法・呼吸法など)を全く聞いたことがない。

18	計		教員		集計					
	A	8			A+B	13				
吉田	B	5			%	100				
	C	0	合計			C+D	0			
	D	0	13		%	0				
			1年	2年	3年	計				
A	7	13	10	30	A+B	41	47	38	126	
B	34	34	28	96	%	68	67	90	73	
C	18	20	4	42	合計					
D	1	3	0	4	172					

### 19. スクールカウンセラーや相談機関の存在と役割を広く伝え、一人一人の生徒を幅広く支援する体制をとりま

教職員	
A	困ったことがあったら、スクールカウンセラーや相談機関に相談したことがある、または相談したいと思ったことがある。
B	機会があればスクールカウンセラーや相談機関に相談したいと思っているが、今のところ困っていることはない。
C	困ったことがあっても、スクールカウンセラーや相談機関に相談したいとは思わない。
D	スクールカウンセラーや相談機関は必要がないと思う。
生徒	
A	教育相談の時などに、先生方やスクールカウンセラーの先生に悩みや困っていることを相談したことがある。
B	教育相談の時などに、先生方やスクールカウンセラーの先生に悩みや困っていることを相談したいと思ったことがある。
C	教育相談の時や休み時間などに、先生方やスクールカウンセラーの先生に相談できることを知らない。
D	スクールカウンセラーの先生が来てくださっていることを知らない。
保護者	
A	子どものことで困ったことがある時に、必要があればスクールカウンセラーや学校外の相談機関に相談したい。(したことがある。)
B	子どものことで困ったことがある時に、必要があればスクールカウンセラーや学校外の相談機関に相談できることを知っている。
C	子どものことで困ったことがある時に、必要があればスクールカウンセラーや学校外の相談機関に相談できることを知っているが、ためらいがある。
D	子どものことで困ったことがある時に、必要があればスクールカウンセラーや学校外の相談機関に相談できることを知らない。

19	計				
	A	8			
吉田	B	7			
	C	0	合計		
	D	0		15	
	1年	2年	3年	計	
A	8	16	6	30	
B	23	28	26	77	
C	22	14	17	53	合計
D	7	7	2	16	176
	1年	2年	3年	計	
A	11	7	13	31	
B	34	49	30	113	
C	7	6	5	18	合計
D	2	4	1	7	169

教員	集計			
A+B	15			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	31	44	32	107
%	52	68	63	61
C+D				
%				
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	45	56	43	144
%	83	85	88	85
C+D				
%				

### ○部活動の推進（文化部・運動部の特性を生かす）

### 20. 豊かな情操, 強い身体, 協調, 共同の精神を育てます。

教職員	
A	部活動全体が共通の目標に向かって努力し、また生徒同士の励まし合う姿が見られる。
B	部活動全体が共通の目標に向かって努力し、生徒同士の声掛け合いが見られるようになってきた。
C	部活動全体が共通の目標に向かって努力しているが、自己のことで精一杯の状態である。
D	部活動全体が共通の目標に向かっておらず、努力も感じられない。
生徒	
A	部活動全体の目標を理解し、全員が同じ気持ちで取り組んでおり、仲間への励まし合いもある。
B	部活動全体の目標を理解し、全員が同じ気持ちで活動できているが、仲間を励まし合う余裕まではない。
C	部活動全体の目標は理解しているが、今は自分自身のことで精一杯である。
D	部活動全体の目標がわからず、どんな努力が必要かも今一わからない。
保護者	
A	部活動全体の様子がわかっており、仲間への思いやりも感じられる。
B	部活動全体の様子がわかっており、全員で同じ活動ができていることが感じられる。
C	部活動全体の様子がわかっているが、自分自身がつい行くことで精一杯の状態である。
D	部活動全体の様子が伝わらず、前向きに活動できているのかが疑問である。

20	計				
	A	7			
平井	B	4			
	C	4	合計		
	D	0		15	
部活顧問					
	1年	2年	3年	計	
	A	42	46	44	132
	B	10	10	4	24
C	7	10	3	20	合計
D	1	5	1	7	183
	1年	2年	3年	計	
A	27	25	31	83	
B	23	35	13	71	
C	2	3	3	8	合計
D	2	3	2	7	169

教員	集計			
A+B	11			
%	73			
C+D	4			
%	27			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	52	56	48	156
%	87	79	92	85
C+D				
%				
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	50	60	44	154
%	93	91	90	91
C+D				
%				

## 21. やり遂げる達成感と充実感を味わわせ、困難に立ち向かう精神力を培います。

教職員	
A	全部員が目標を定め、その実現に向けて精一杯努力する姿が見られる。
B	全部員が目標を持って練習している。
C	全部員が目標を持っているが、努力しているように思えない時が多い。
D	全部員が目標を持たず、また努力している様子が見られない。
生徒	
A	部活動では自己の目標を決め、その実現に向けて精一杯努力できた。
B	部活動では自己の目標を決め、その実現に向けて日々取り組めた。
C	部活動では自己の目標はあるが、その達成に向けて努力できなかった。
D	部活動では目標をもって部活動に参加することができなかった。

21		計			
平井 部活顧問	A	5	合計 15		
	B	8			
	C	1			
	D	1			
		1年	2年	3年	計
A	33	37	35	105	合計 182
B	22	26	13	61	
C	4	4	2	10	
D	1	4	1	6	

教員		集計			
A+B		13			
%		87			
C+D		2			
%		13			
生徒		1年	2年	3年	合計
A+B		55	63	48	166
%		92	89	94	91

## ○基本的な生活習慣の確立

## 22. 「早寝、早起き、しっかり朝食」の実践を啓発します。

教職員	
A	基本的な生活習慣を身につけることの大切さを機会をとらえて指導してきており、ほとんどの生徒が好ましい、規則正しい生活を送っていると考える。
B	基本的な生活習慣を身につけさせるために時々指導してきた。だいたいの生徒が規則正しい生活を送っていると考える。
C	基本的な生活習慣は大切であると考えているが、特に指導はしていない。けれども生徒たちの生活習慣はふつうであると考える。
D	基本的な生活習慣をつけさせることはとても大切だと思う。
生徒	
A	規則正しい生活を送っている。
B	だいたい規則正しい生活を送っている。
C	起きる時間や寝る時間は一定していない。朝ご飯も食べたり食べなかったりする。
D	毎日好きなときに寝て、適当に起きて登校している。朝ご飯もほとんど食べない。
保護者	
A	規則正しい生活は子どもにとって必要であり重要なことだと思う。子どもの生活習慣についても把握している。
B	規則正しい生活は子どもにとって必要であり重要なことだと思うが、子どもの生活習慣については本人に任せている。
C	規則正しい生活は子どもにとって必要であり重要なことだと思う。子どもの生活習慣についてはあまり知らないが、まあまあだと思う。
D	規則正しい生活は子どもにとって必要であり重要なことだと思うが、子どもの生活習慣についてはあまり知らないし、よくないと思う。

22		計			
伊東	A	6	合計 15		
	B	9			
	C	0			
	D	0			
		1年	2年	3年	計
A	19	9	18	46	合計 182
B	34	49	28	111	
C	7	12	4	23	
D	0	1	1	2	
		1年	2年	3年	計
A	37	44	38	119	合計 168
B	17	19	12	48	
C	0	1	0	1	
D	0	0	0	0	

教員		集計			
A+B		15			
%		100			
C+D		0			
%		0			
生徒		1年	2年	3年	合計
A+B		53	58	46	157
%		88	82	90	86
保護者		1年	2年	3年	合計
A+B		54	63	50	167
%		100	98	100	99

### 23. 善悪を正しく判断し、行動する大切さを指導します。

教職員	
A	善悪の判断について、生徒一人ひとりができるように絶えず指導・徹底してきた。生徒の規範意識が高まっていると考える。
B	善悪の判断について全体に指導してきており、生徒たちはある程度規範意識を持っていると考える。
C	善悪の判断について指導してきたが、あまり生徒たちの規範意識がついていないと思えない。
D	善悪の判断について指導してきたが、生徒たちはほとんど規範意識がついていないと思う。
生徒	
A	よいことと悪いことの判断がしっかりできる。また、いろいろな誘惑に打ち勝つことができる。
B	よいことと悪いことの判断ができる。また、他人からのよくない誘いを断ることができる。
C	よいことと悪いことの判断が十分にできない。また、いろいろな誘惑に負けることも多い。
D	よいことと悪いことの判断ができない。また、他人から誘惑されると断れない。
保護者	
A	善悪の判断の大切さについて、家庭内で本人がわかるように教えている。子どもの規範意識は身についていると考える。
B	善悪の判断の大切さについて話をしており、子どもはある程度規範意識を持っていると考える。
C	善悪の判断について特に話をしていない。また、子どもの規範意識が身についているとは思えない。
D	善悪の判断について話をしたことがない。子どもはほとんど規範意識がついていないと思う。

23	計				
	A	7			
伊東	B	8			
	C	0	合計		
	D	0	15		
		1年	2年	3年	計
A	22	20	16	58	
B	33	43	33	109	
C	5	8	2	15	合計
D	0	0	0	0	182
	1年	2年	3年	計	
A	24	26	23	73	
B	30	38	27	95	
C	0	1	0	1	合計
D	0	0	0	0	169

教員	集計			
A+B	15			
%	100			
C+D	0			
%	0			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	55	63	49	167
%	92	89	96	92
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	54	64	50	168
%	100	98	100	99

### 24. 交通安全教室、避難訓練、防犯教室など、現代社会の中で自らを守る意識の重要性と心構え、基本動作

教職員	
A	生徒の90%以上は、自らを守ることができると思う
B	生徒の80%以上は、自らを守ることができると思う
C	生徒の70%以上は、自らを守ることができると思う
D	生徒の60%以上は、自らを守ることができると思う
生徒	
A	いつも自分の安全について意識しており、自分の身を守る自信がある
B	いつも自分の安全について意識しており、自分の身を守る自信があると思う
C	自分の安全について意識はしているが、自分の身を守る自信はない
D	自分の安全についてほとんど意識したことはない
保護者	
A	子どもが外出する際には、行き先や帰宅時刻を確認し安全に気をつけることを必ず言っている
B	子どもが外出する際には、行き先や帰宅時刻を確認し安全に気をつけることをだいたい言っている
C	子どもが外出する際には、行き先や帰宅時刻を確認し安全に気をつけることをあまり言わない
D	子どもが外出する際には、行き先や帰宅時刻を確認し安全に気をつけることを言ったことがない

24	計				
	A	9			
佐竹	B	4			
	C	2	合計		
	D	0	15		
		1年	2年	3年	計
A	24	20	16	60	
B	30	42	30	102	
C	5	8	2	15	合計
D	1	1	3	5	182
	1年	2年	3年	計	
A	45	52	37	134	
B	8	13	11	32	
C	2	1	2	5	合計
D	0	0	0	0	171

教員	集計			
A+B	13			
%	87			
C+D	2			
%	13			
生徒	1年	2年	3年	合計
A+B	54	62	46	162
%	90	87	90	89
保護者	1年	2年	3年	合計
A+B	53	65	48	166
%	96	98	96	97

25. 場に応じたさわやかなあいさつや言葉遣い、正しい礼儀作法など、生徒個々の社会性を高めます。

教職員	
A	挨拶・言葉遣いやマナーについて、機会をとらえて指導している。
B	挨拶・言葉遣いやマナーについて、時々指導している。
C	挨拶・言葉遣いやマナーについては、特に指導していない。
D	挨拶・言葉遣いやマナーについて指導していない。
生徒	
A	あいさつや会釈は自然に行うことができるし、礼儀正しく生活している。
B	あいさつや会釈については、必要なときはしている。生活においてマナーを守って生活している。
C	あいさつや会釈については、あまりできていないと思う。マナーについてもいい方ではない。
D	あいさつや会釈はできていない。また、マナーについて考えていないし、よくない。
保護者	
A	挨拶・言葉遣いやマナーについて、機会をとらえて指導している。
B	挨拶・言葉遣いやマナーについて、時々指導している。
C	挨拶・言葉遣いやマナーについては、特に指導していない。
D	挨拶・言葉遣いやマナーについて指導していない。

伊東	25				計	
	A	14				
	B	1				
	C	0		合計	15	
	D	0				
	1年	2年	3年	計		
A	26	30	26	82		
B	29	35	24	88		
C	5	4	1	10	合計	
D	0	2	0	2	182	
	1年	2年	3年	計		
A	28	42	36	106		
B	27	23	12	62		
C	0	1	2	3	合計	
D	0	0	0	0	171	

教員		集計			
A+B		15			
%		100			
C+D		0			
%		0			
生徒		1年	2年	3年	合計
A+B		55	65	50	170
%		92	92	98	93
保護者		1年	2年	3年	合計
A+B		55	65	48	168
%		100	98	96	98